

〔様式 4〕

令和 3 年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校では、「共通教科・専門教科（商業）教育」「部活動」「多彩な活動」等あらゆる機会を通して人格の形成を目指しながら、地域社会や職場に貢献できる実践的な逞しい生徒の育成を図っている。本年度も、5 項目の重点課題を挙げて、全教職員で共通理解を図りながら取り組んだ。

- (1)「学習活動 1」では、コロナ禍が続く中、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高めるための授業改善に努め、授業内容の理解度が目標を超えていることは、ふりかえりの設定などきめ細やかな指導の成果も大きかったのではないかと。できれば、今後「学習ふりかえり WEEK」で、生徒自身が「学力の 3 要素」で学習成果をふりかえり、それを元に生徒の資質・能力に関する自覚を促し、学習計画や進路選択の参考にして頂きたい。また、ICT を活用した授業においては、更なる研究、意見交換が必要だと感じる。
- (2)「学習活動 2」では、1・2 年生の小学科の基礎及び重点科目での理解度の割合と、3 年生の 1 級の資格取得科目で各々目標が高くなった中で、いずれも目標を超えており、先生方のご指導の賜物と思う。また、単に検定の合格人数や取得率を高めるだけでなく、学科集会の積極的な実施で下級生の意識の向上や上級生との縦の繋がりが深まったことは大きな成果である。下級生の勉強姿勢や上級生の知識の定着や探究心の向上にも繋がりが学びの質が高まっていると感じられる。その成果としてプレゼンテーション能力が向上し進路面接で力を発揮したことで、学生達の学びに対する自信も芽生えたのではないかと。
- (3)「学校生活」では、コロナ禍が続く中での生徒指導の難しさはあると思うが、遅刻 0 の日が昨年を上回る値で達成できており、校風と共に日々の教育活動や生徒指導を通じて、実社会で必要とされている挨拶などのビジネスマナーが徹底されていることが分かる。コロナ禍での生活環境の変化に対応しながら、挨拶や身だしなみを身につかせ高商生としての人格を育成することは地域社会の期待するところであり、今後とも、規範意識の醸成をお願いしたい。
- (4)「進路支援」では、コロナ禍により多くの進路に関する体験や企画が中止となり、また生徒の価値観や学力が多様化する中で、3 年生の進路に関する満足度がほぼ 100% であり、細やかな指導の成果である。しかし、生徒の中には自己理解が十分出来ておらず、安易な進路選択を行う場合があるので、1 年次から 3 年間を見通した学習進路指導を成長段階に応じて実施し、早期に具体的な進路目標を決められるようにして頂きたい。今後コロナ禍で危惧される早期の離職や退学等による孤立を防ぐ支援などがあれば、安心できる進路支援に繋がると思う。
- (5)「特別活動」では、コロナ禍の影響により、練習時間や環境、大会や他校との交流も制限され、学びや成長の場を奪われた中で、部活動を通して競技力や心が成長したと感じている生徒の割合は目標よりも低い、野球部の夏の甲子園出場のように、生徒は熱意を持って努力したと評価できる。これからも生徒が充実した学校生活を送り、学校に元気を与えられる特別活動、そして地域に愛される活動を目指して、生徒の指導をお願いしたい。

スクールポリシーについて、高商の理念や取り組みが目指す教育の特色とともに大変分かりやすくまとめられているのではないかと。このようなスクールポリシーを策定することは、キャリア教育に取り組んできた高商にとっては大きなチャンスだと思う。社会が大きく変化し、生徒の興味関心や意欲が多様化する中で、単に進学や就職をさせるだけではなく夢に挑戦できるよう社会的役割や目指すべき学校像を定めることは大きな意義があると思う。ただ、策定や検証による教職員の方々の事務作業が増えることや、評価に囚われ生徒指導や学習指導に支障がでないようをお願いしたい。

7 次年度に向けての課題と方策

- (1)令和 4 年度より年次進行で新学習指導要領が実施される。本校は、新入生から小学科名が変更され、これまで以上に、時代の進展に対応したビジネス教育を推進して行かなければならない。例えば、ICT スキルの向上で、実社会で求められるような与えられた課題の本質を理解し、どのような手法の組み立てで課題解決ができるのかといった能力を育成するための授業の工夫が必要である。
- (2)「模擬株式会社 りゅうりゅう」のコロナ禍での企業経営について、次年度の高岡駅 2 階の常設店舗の移転もあり、生徒の主体的な企画発想力や創造性等を育成しながら、新商品の開発や販売方法の工夫をしていかなければならない。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動1 (教科指導)	
重点課題	「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業実践と確かな学力の向上	
現 状	生徒の興味関心や学習に対する意識、学力などが多様化しており、学習への取り組み方や理解度・定着状況に差が表れている一方で、社会が求める人物像や新しい学力観に向け、生徒が主体的・対話的に学び、学習を深めるための授業改善を進め、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高め、確かな学力を定着させることが必要である。	
達成目標	校内研修(研究授業、互見授業) 参加した回数 提出されたレポートの枚数	授業内容の理解度(興味・関心の喚起) ふりかえりシートを活用し理解度を 自覚させる等、積極的な学習活動につ なげる。
	2回以上 (内1回はAL型授業)	80%以上
方 策	・年2回の校内研修期間を設定し、可能な範囲で「主体的・対話的で深い学び」に向けた研究授業や互見授業を実施する。提出された研修レポートはPDF化してネットワーク上に公開し、全教員が成果を共有する。 ・学習意欲を喚起させ、学習計画を立てさせるため、年4回の定期考査前に教務通信「Study Navi」を配布し、生徒に活用させる。 ・各学期末に「学習ふりかえり WEEK」を設定し、「学習ふりかえりシート」を用いて学習に対する意識や理解度など、生徒自身が学習活動をふりかえる時間を確保する。また授業評価アンケートを実施し、「わかる授業」への工夫、改善を考える参考とする。 ・研修レポートの内容やふりかえりシートの分析結果の検討を教科や学年で行い、指導法の研究や学習意欲の向上など、学習指導の充実を図る。	
達 成 度	3.0回	全体 95.5%(2学期)
具体的な 取組状況	・校内研修の期間として、5月と11月の2回を設定した。5月では、年次研修対象者を中心に研究授業を実施した。11月は、3日間の授業を対象とした互見授業とした。 ・教務通信「StudyNavi」では、学習意欲の向上を図る目的で、裏面に考査前の学習計画表を載せるなど、その時期や学年に応じた内容になるようにしている。 ・各学期末の「学習ふりかえり WEEK」では、生徒が「学習ふりかえりシート」を記入することで自分の学習活動に対する振り返りをし、また、授業評価も実施した。	
評 価	A	・教員の校内研修参加回数、生徒の理解度ともに達成目標を上回り、高い数値となった。生徒の理解を深めるための、より良い授業を考える取り組みが成果として表れた。
学校評議員の意見	コロナ禍の厳しい環境の中、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を高めるための授業改善に努められていることに感謝する。ICTを活用した授業においては、更なる研究や意見交換等、ベテランと若手教員との間での知識や経験の相互共有が大切になると思われる。今後、生徒自身が「学力の3要素」で学習成果を振り返り、それをもとに生徒の資質・能力に関する自覚を促し、学習計画や進路選択の参考にして頂きたい。	
次年度に 向けての 課 題	・今年度のICT機器を活用した授業、AL型授業への取り組みが多く見られたが、教科の特性もあり、導入が進んでいない教科もあった。全ての教科でこれらの取り組みができるよう授業改善に取り組まなければならない。多くの教科で、グループ・ペア学習を取り入れ、生徒が主体的に活動できるよう教科を超えて指導技術を共有できるように研修を企画する必要がある。 ・生徒の学習ふりかえりについては、生徒の理解度から授業の評価に変え、指導者側の資料とすることも考えられる。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学習活動2 (検定指導)	
重点課題	小学科における重点科目の学習理解度の向上と資格取得	
現 状	商業の各科目に関する専門分野に関する基礎的・基本的な知識、技術及び技能の定着を図ることを指導目標としている。小学科ごとに重点科目を設け、学習理解の到達度を確認するとともに、全国商業高等学校協会主催の資格取得目標を掲げることにより、学習理解到達度や資格取得達成率の向上を図っている。	
達成目標	1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容の理解度 流通経済科：ビジネス基礎、マーケティング 国際経済科：簿記、ビジネス経済 会計科：簿記、財務会計Ⅰ 情報処理科：情報処理、ビジネス情報	3年生は3年間を通して全商主催検定1級の3種目以上取得達成者数
	90%以上	80人以上
方 策	・生徒に各学科の教育目標、重点科目、取得資格目標検定について説明を行い、生徒の学習意欲を引き出す指導方法を工夫する。 ・生徒の検定取得に関する実態調査を行い、検定取得実現に向けての具体的方策、改善点について考える。 ・教員が各学科の取得目標とする検定の学習内容の研究を深め、教員間でより効果的な指導方法について意見交換を行う。	
達成度	1年生 90.1% 2年生 91.4%	3年生 96名
具体的な取組状況	・生徒に各学科の学習内容、重点科目、取得資格目標検定、実践的活動について説明するため、各学科において学科集会を毎学期に実施し、学習意欲の高揚と学科における縦の繋がりを図った。また、検定取得に向けたモチベーションの向上と、これまでの学習を深める狙いとして、上級生が下級生に対し、マンツーマンで教え合う授業を実施した。 ・重点期間においては検定取得に向けて、朝学習や放課後補習に取り組んだ。 ・全商検定取得に向け自由に利用できる利用できるプリントを各階に置くことで、各自のペースに併せて理解が深まる仕組みを作った。 ・1・2年生は小学科の基礎科目、重点科目の授業内容に関しての理解度調査を実施した。教員は日頃の授業の指導内容を振り返る機会となり、より効果的な指導方法を互いに研究するなど授業改善に努めた。	
評 価	A	1・2年生は多くの生徒が小学科の基礎科目、重点科目の授業内容について理解し、検定等も成果をあげた。 3年生は資格取得に向けて努力を重ねるだけでなく、理解した内容について後輩たちに伝える機会を設けたことにより、プレゼンテーション能力が向上し、進路決定における面接試験でも大いにその力を発揮した。
学校関係者の意見	単に検定の合格人数や取得率を高めるだけでなく、今年度は学科集会を積極的に実施することで、下級生の意識の向上や上級生との縦の繋がりが深まったことは大きな成果である。今後、全商検定や大学入学共通テストに向けて、どの教科においても「論理的及び多面的な思考力・判断力・表現力」の育成をお願いしたい。	
次年度に向けての課題	・1・2年生で小学科の基礎科目、重点科目の理解度は概ね目標を達成していた。さらに生徒が主体的に学べるような授業展開を工夫することで、理解不足の生徒には個別指導等による継続的な指導を徹底し、学習意欲を高める必要がある。 ・検定の出題内容は以前より思考力、判断力を求める問題が多くなっている。より理解しやすい授業になるよう指導方法や、学校全体としての仕組み作りを工夫しなければならない。	

(評価基準 A:達成できた B:ほぼ達成できた C:現状維持 D:現状より悪くなった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 3 -		
重点項目	学校生活（生徒指導）	
重点課題	基本的生活習慣の確立と規範意識の向上	
現 状	生活環境が多様化している中、あいさつや時間厳守・頭髪や服装等の自律に乏しい生徒が見受けられる。また、交通マナー（自転車運転）が身につけていない生徒も見受けられる。また、スマートフォンの所有率がほぼ100%に近いなか、ネットトラブルを起こしたり、使用ルールを守れない生徒が見受けられる。情報モラル教育の工夫が必要である。	
達成目標	遅刻0の日	
	年間を通じて120日以上	
方 策	・ビジネスマナー、規範意識等が身についた信頼される生徒の育成を図る。 ・「時を守り、場を淨め、礼を正す」の徹底を行う。 ・遅刻や頭髪再検査を繰り返す生徒を早期に把握し、本人との面接や保護者と連携を図り、生活習慣の改善を促す指導を行う。 ・他者を理解し、仲間を大切に、認めあい、学びあいながら生徒の育成を図る。 ・月例交通安全指導日を中心に積極的な交通安全活動を促す指導を行う。	
達成度	遅刻をした日数 32日 内訳 1年生…6日 2年生…5日 3年生…23日	
具体的な取組状況	・商業高校生の身につけることは、信頼のある生徒であることを全校生徒に説明した。 ・教員と生徒の共通理解を図りながら、頭髪・服装検査を年間6回実施した。 ・自律委員とサイクル安全委員が中心となり、毎月街頭指導（1日・15日）を実施し、交通マナーの遵守を促した。	
評 価	A	・遅刻0の日が、120日以上であった。
学校関係者の意見	コロナ禍が続く中での生徒指導の難しさはあったと思うが、遅刻0の日が昨年を上回る値で達成されている。先生方の熱心な指導の成果であり、校風と共に日々の教育活動や生徒指導を通じて、実社会で必要とされている挨拶などのビジネスマナーが徹底されている。生活環境の変化に対応しながら挨拶や身だしなみを身につけさせ高商生としての人格を育成することは地域社会の期待するところである。今後とも、規範意識の醸成をお願いしたい。	
次年度に向けての課題	・地元ビジネス界で必要とされる商業高校生としての、身だしなみ・言葉遣い・あいさつ等をしっかりと身につけさせ、コロナ禍での生活環境の変化に対応し、生徒を育てる指導を継続していかなければならない。 ・PTA・保護者と連携を図り、社会規範を遵守させる指導を推し進め、交通マナー（自転車運転）や電車・バス等の乗車マナーの向上に努めなければならない。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 4 -		
重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	生徒の進路選択における主体性を高めるための取り組み	
現 状	・生徒が自分自身の個性や適性を知り、将来の職業や人物像について考えを深める機会が少ないため、進路を意識する時期が遅い傾向にある。 ・コロナ禍で、就業体験や企業見学、外部講師や卒業生の招聘事業の実施や訪問型のオープンキャンパスへの参加が難しく、生徒にとっては進路目標を明確にしづらい状況が続いている。	
達成目標	1・2年生 学年・クラスで実施する進路学習の時間	3年生 進路に対する満足度 (就職内定企業・進学予定校)
	各学年 5時間以上	3年生：95%以上
方 策	・生徒には学年集会等で『進路の研究』について説明し、見通しを持った進路選択ができるように促す。1年生については、中学校からのキャリアパスポートの引き継ぎを円滑に行い、高校での進路指導につなげる。 ・主体的な進路選択につなげるため、各企業や学校についての資料の充実や提供方法の工夫を図り、生徒の積極的な利用を促す。 ・2学年終了までに進路目標を持てるようホームルームや学年集会を利用した進路学習や進路講座を実施し、アンケート等により実態把握と意識調査を行う。また、卒業生に対する追跡調査を実施し、進路指導の充実を図る。	
達 成 度	進路学習の時間（3月末までに） ・1年生・・・4時間 ・2年生・・・7時間	3年生 進路に対する満足度 就職100% 進学99%
具体的な 取組状況	・1年生：「進路の研究」の配布・説明（10月ホームルームで1時間）、「進路ガイダンス」（12月・3時間）を実施。 ・2年生：3年生との懇談会（2月・2時間）、卒業生との懇談会（3月・2時間）、進路別ガイダンス（3月・3時間）を実施予定。 ・1・2年の国公立大学進学希望者：進学特別講座（7月と12月・各2時間）を実施。7月は20名、12月は15名の生徒が参加した。 ・3年生：進学希望者対象に土曜講座で小論文・面接対策講座（7月～11月・全13回）を実施。就職希望者には就職ガイダンス（7月）、就職試験直前対策の講座（8月）の実施と、応募前の企業見学を3社以上行った。	
評 価	B	進路学習の時間については、2年生については3月末までに目標を達成する予定であるが、1年生については達成できなかった。3年生への進路先や進路選択に対するアンケートで、「満足・やや満足」と回答した生徒の割合は、就職者が100%、進学者が99%であった。
学校関係者の意見	コロナ禍で多くの進路に関する体験や企画が中止となり、生徒の価値観や学力が多様化する中、3年生の進路に関する満足度がほぼ100%であることは、先生方の熱意ある指導の賜物であると思う。ただ、生徒の中には自己理解が十分出来ておらず、安易な進路選択を行う場合があるので、1年次から3年間を見通した学習進路指導を成長段階に応じて実施し、早期に具体的な進路目標を決められるようにして頂きたい。	
次年度に 向けての 課 題	・1年生に関しては、進路学習の時間の目標を達成できなかったことと、「進路の研究」の配布・説明が、ホームルームの時間に各担任の先生にお任せする形になってしまったことが課題である。来年度は時期を変え、「進路の研究」に合わせて職業研究といった進路学習の機会を新たに設けたい。 ・2年生の進路学習の時間は、全て学年末に集中してしまったことが課題である。入学から卒業まで、3年間を視野に入れた、バランスのとれた進路指導計画が必要である。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成きた C：達成できなかった)

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和3年度 高岡商業高等学校アクションプラン - 5 -		
重点項目	特別活動	
重点課題	部活動の充実と競技力の向上	
現 状	本校では、部活動を人格形成の重要な柱として位置づけ、各部が高い目標に向かって課題を追求しながら自発的な活動を行っている。また、スポーツ庁のガイドラインや県の方針を踏まえた部活動の在り方を検討し、合理的・効率的に工夫した練習を行っている。生徒が主体となって活動することにより、自らが成就感・達成感を味わい、心の成長を感じることができる部活動を目指す。	
達成目標	部活動を通して競技力の向上と豊かな心の成長を感じられる生徒の割合	
	90%以上	
方 策	・部活動指導員及びテクニカルエキスパートによる技術指導・生活指導等を充実する。 ・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図る。 ・スポーツ庁および県の方針に従いながら、県内外の強豪校と練習する機会を積極的に設け、技能の向上を図るとともに意識の高揚に努める。 ・生徒が目標を持って学校生活に取り組めるよう、根気強くフォローし、リーダー研修会等を開き、リーダーとしての資質を高める。 ・生徒が部活動を通して自己の成長を実感できるよう、各部の活動を顧問が適切にサポートする。	
達成度	85.6%	
具体的な 取組状況	・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートによる技術指導・生活指導等を行い、各部の活動内容の充実を図った。 ・トレーニングハウスのトレーニング機器を有効に活用し、基礎体力の向上を図った。 ・県内外の強豪校との練習会等により、技術の向上を図るとともに意識の高揚に努めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴いリーダー研修会は、実施せず。 ・生徒が部活動で自己の成長を実感できるように、各部の活動内容を充実させるよう努めた。	
評 価	C	部活動を通して、競技力（成績等）や心が成長したと感じている生徒は、「大いにある」が35.7%、「ある程度ある」が49.9%であった。
学校関係 者の意見	コロナ禍で最も影響を受けた活動であり、目標よりも低い達成度となっているが、野球部の夏の甲子園出場のように生徒は熱意を持って努力したと評価できる。これからも生徒が充実した学校生活を送り、学校に元気を与えられる特別活動、そして地域に愛される活動を目指して生徒指導をお願いしたい。	
次年度に 向けての 課 題	・生徒が主体の活動を推進し、生徒の意見を反映させた部活動になるよう努め、知・徳・体にわたる「生きる力」を育み、人格の形成を図る。 ・本年度同様、スポーツ庁・文化庁のガイドラインを遵守することを一層徹底する。 ・部活動指導員及び特別活動指導員、テクニカルエキスパートによる技術指導等を充実させる。	

(評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：達成できなかった)